

さ ぶ り め ん と



形成外科と美容外科(前編)



《形成外科とは?》

形成外科 浅田 裕司

形成外科と聞いてどんな診療内容を思い浮かべられるでしょうか?

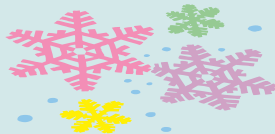
整形外科とどう違うの?これはよく言われる質問です。整形外科は骨や筋肉の病気や怪我を扱いますが、形成外科はもっと体の表面の病気や怪我を扱います。わかりやすい表現としては皮膚表面外科が近そうですが、顔の骨折などは形成外科で治療を行います。体表面の病気や異常、形態の異常を主に手術により治療します。

また形成外科は美容外科とも関係が深く、美容外科は形成外科の一分野とされています。最近は多くの大学の形成外科講座で美容外科も扱うようになってきました。ちなみに一般的に良く使われる美容整形という言葉は医療法上では使われず、美容外科という言葉が使われます。

美容外科で行う手術も内容的にはほとんど形成外科での手術と同じで、手術を行う対象が違うという程度です。形成外科は病気や変形などの異常を正常の状態に戻し、美容外科は正常の範囲にあるものをより美しく見えるように変えることを目的とします。

眼瞼下垂や腋臭症、体表面の変形など美容外科での自費診療と思われる疾患でも、実際は保険適応となっているものも多くあります。そこでこれら美容外科で治療が行われるように思われがちな保険適応の疾患に関しいくつか説明してみましょう。

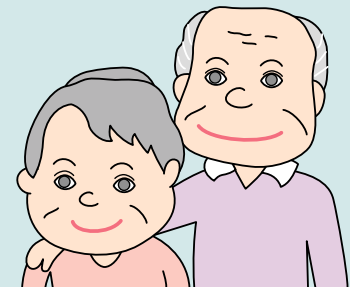
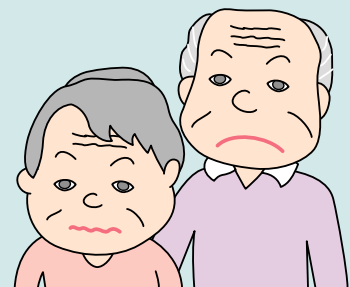
《眼瞼下垂って?》



ある程度年齢を重ねると、眼瞼(まぶた)は多かれ少なかれ下垂してきます。眼瞼が下がってくると視野が狭くなり本やテレビを見るのが辛くなってきたりします。特に上のほうが見えにくくなってきますので、車の運転をされる方は交差点の近くで信号を確認しづらくなり、それとは気づかず赤信号で交差点に入ってしまうことがあり危険です。

瞼が開きにくいとそれをカバーするために眉毛を引き上げることになり、額のしわが増える原因のひとつとなります。無意識のうちに顎を持ち上げるようになり、そういったことが重なって神経が余分に緊張した状態となり、肩こりや頭痛などが起こることもあります。目に光があまり入ってこない世界も暗く感じ気分が落ち込むこともあるようです。こういった症状も眼瞼下垂を治療することで改善される場合があります。

一重瞼の方やコンタクトレンズを常用されている方などでは、比較的若くから起こることもあります。治療としては比較的軽度で一重瞼の場合は二重瞼にするだけで改善することもあります。多くの場合には瞼を引き上げるための筋肉につながる膜を引き出して固定する手術を行います。1週間程度は瞼が腫れますので、ある程度時間の余裕をとっておいてもらったほうが良いでしょう。



★第4回 消化器病教室★

日時:平成21年1月27日(水) 15時~17時

場所:管理棟2階 会議室C・D

内容:・自己免疫性肝炎について
・原発性胆汁性肝硬変の治療について

※参加は自由にして頂けます。予約不要!!

理念 良質な医療を働く人々に、地域の人々に、そして世界の人々のために

- ・私たちは、働く人々の健康確保のための医療活動、即ち「勤労者医療」の中核的役割を担ってこれを推進します。
- ・私たちは、急性期医療機関として良質で安全・高度な医療の提供を行うとともに、地域の諸機関と連携して地域医療の充実を図り「地域に生き、社会に応える病院」としての発展を目指します。
- ・私たちは、患者様の権利を尊重し、医療の質の向上ならびに患者サービスの充実に励み、「信頼され、親しまれる病院」作りを心がけます。
- ・私たちは、「開かれた皆様の病院」として、ボランティアや有志の方々の病院運営への参加・協力を歓迎します。
- ・私たちは、病院使命の効果的な実現のために「働き甲斐のある職場」作りを行い、運営の効率化と経営の合理化を推進します。

基本方針



形成外科と美容外科



《耳や鼻の変形とは？》

耳は先天性の変形が比較的多い部位で、小さい耳(小耳症)や立ちすぎた耳(立ち耳)、尖った耳(スタール耳)などほとんどの変形が保険治療の対象となっています。小児の場合は5～6歳までに手術を行うことが多いので全身麻酔での手術となりますが、成人ではほとんどすべての手術が局所麻酔で可能ですので入院の必要もありません。

後天性の変形としては多くのものが外傷により起こります。最近はピアスをしている方も多く、若い女性ではしている方が圧倒的に多そうですが、ピアスによるトラブルも少なくありません。ピアスを入れた直後にはピアス孔の感染やピアスが耳たぶの中に埋もれてしまうなど、しばらくしてからは入れているピアスがどこかに引っかかって耳たぶが切れたりピアス孔が赤く盛り上がるケロイドなどがあります。ピアスは信頼できる施設に入れてもらうことが重要で、入れた直後のトラブルはそうした施設で適切な対応をしてもらえるはずですが、そうでない場合にはご相談ください。

鼻の変形ですと、ただ単に鼻を高くしたい場合は当然保険は適応されませんが、事故などで低くなってしまった鼻(鞍鼻)や先天性・後天性に曲がった鼻(斜鼻)などは保険が適応されます。治療は骨を切ったりする必要があるため、耳とは違い全身麻酔が必要となる場合もあります。

また耳や鼻は複雑な立体構造をしており皮膚の余裕も少ないため、外傷や腫瘍の切除などによって変形を生じやすい部位でもあります。これらは言うまでもなく保険治療となります。

・・・後編へ続く

★よろず相談プラザについて★

当院外来棟1階によるず相談プラザがありますが、ご存知でしょうか？時々「よろず相談プラザって書いてあるけど、どんな事を相談できるの?」とお尋ねに来られます。今回は、そのよろず相談プラザがどんなところかをご紹介します。

総合相談窓口として

「よろず」とは漢字で表記すると「万」と書きます。それは「あらゆるもの」という意味になります。その意味の通り、あらゆるご相談をお受けいたします。例えば、受診・転院・介護・在宅療養のご相談、治療費について、制度利用についてなど様々です。ただ、すべてのご相談がよろず相談プラザで解決できるわけではございませんので、院内のスタッフや院外の方々(地域の医療機関や行政など)と連携しながら対応致しております。また特に、入院患者さまの退院時のご相談(在宅療養・転院についてなど)を専門の看護師や医療ソーシャルワーカーが対応しております。

がん相談支援センターとして

当院は平成19年1月に厚生労働省より「地域がん診療連携拠点病院」として指定されました。その取り組みのひとつに「がん相談支援センター」の機能があります。がんに関して悩まれている患者さま及びそのご家族や地域の皆様からがんに関するあらゆる相談をお受けしています。

地域連携の役割

地域の医療機関さまを対象(申し訳ございませんが患者さまご本人やご家族等からの外来予約等はお受けできません)として、当院への外来予約や、受診などの相談窓口をよろず相談プラザ内の地域医療室が担当させていただいております。

何か、ご相談がございましたら、ご遠慮なく、よろず相談プラザまでお越しください。